

《どうでもいい話、その 529》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

コロナ感染拡大での自粛疲弊が溜まってきました。近所の子供たちも2か月近く休校になっていますが、ストレス発散また時間の使い方は大人よりうまいものです。家では塾など習い事のオンライン授業を受け、それが終わると近くの公園・運動場や比較的人、車の往来が少ない道路で毎日数人が集まり遊んでいます。中・高生くらいの男は、サッカーなど、女は、バトミントンなどを行っていますが、小学生となると団体競技のドッチボール、かくれんぼ、鬼ごっこ、個人競技の縄跳び、フラフープ、スケボーなどが日課になっています。それも毎日3～4時間も戯れています。そこにはリーダーがいて、参加者募集を呼びかけ応募者は、仲間外れになるのを恐れ申し込みます。そして適した人数に達すると募集打ち切りになります。このリーダーは「有力者」とでもいうべき立場の人でなければなりません。有力者でない者がやっても応募者不足で開催中止の憂き目を見ることになります。またリーダーの気に入らない子がいるとその子が応募してもムシします。ムシされた子は、自分の不様さと無力を嘆きつつ引き下がり隅の方でイジイジしながら一人遊びをすることになります。また、遊びの実施内容、ルールについては、リーダー一任で、自分とは意見が異なっても、逆らえません。みんなが楽しそうに遊んでいるその裏には、大人社会顔負けのこうした駆け引きとともに、密着、密談、密告の3密もあるのです。

岩波より